

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	法学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究者および高度専門職業人の着実な養成を実現するために入試制度を見直し、学位取得プロセス、学位審査基準を明確化し、公表する。	→ 「定員充足率」 「博士前期課程エキスパートコース修了者の就職状況(就職決定率と就職決定先)」 「大学院学生対象の授業評価実施回数」 「大学院入試説明会の開催時期と開催回数」 「大学院広報掲載雑誌数・パンフレット作成の有無」	C	C	B		
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

☆	<p>「研究科の理念・目的」については、設定され公表され、定期的見直しの制度も整備された。「研究者および高度専門職業人の着実な養成を実現するために入試制度を見直し、学位取得プロセス、学位審査基準を明確化し、公表する。」という目標については、</p> <p>1、入試制度の見直しについては、行ってきており、制度的にも実現しているという点ではできているが、結果として十分な大学院生を確保するという点では十分ではない。ただし、修了後の進路先の確保との関係があり、現時点で大幅に一律に入試試験を容易化してまで定員確保するよりも、一定の水準のある学生を入学させ、きちんとした学位授与・就職の実績を作ることが重要であるという判断もある。</p> <p>2、「アカデミックコース、エキスパートコース2つに対応すること」については策定され、実現されている。</p> <p>3、「学位取得プロセス、学位審査基準の明確化・公表という「目標」に関して、すべて2011年度2012年度に実現された。これらの点からすれば、A評価でもよいが、目標1の大学院広報掲載雑誌数やパンフレット等、評価指標として挙げられている項目との関係でB評価とした。</p>
	<p>「○「入試制度の見直し、学位取得プロセス、学位審査基準の明確化・公表」という「目標」に関しては、「理念・目的」という評価指標として妥当であるか検討が必要である。「入試制度の見直し」は、「5 学生の受け入れ」部分に、「学位取得プロセス、学位審査基準の明確化・公表」は、「6 教育内容・方法・成果」部分に該当するはずである。」という指摘を昨年もしているが、それにそって、目標達成については、それぞれの項目で、また本項目においては、項目の趣旨にそった形での改革を図ってきており、ほぼ予定通り、実現されてきている。</p>